

3 年 1 組 道徳科学習指導案

1 主題構成表

主題名 分けへだてをせずに

資料名 「道夫とぼく」 <出典 小学道徳 ゆたかな心 光村図書>

場 所：3年1組 教室

■内容項目 C- (10) 公正、公平、社会正義 誰に対しても分け隔てをせず、公正、公平な態度で接すること。	■内容項目から見た児童の実態 <意識> ・困っている人を進んで助けたり、声をかけたりすることができる。 ・学級で遊ぶとき、全員が積極的に参加し、楽しむことができる。 ・仲間のよさを見つけ発表したり、「きらめき見つけ」に書いたりすることができる児童が多い。 ・誰とでもペア活動や話し合いを行える児童が多いが、その一方で、固定した仲間とだけ行動し、交友関係を広げられない児童もいる。 ・印象や見た目で相手を判断し、人によって態度を変えてしまう児童がいる。 ・相手との関係の深さの違いで、声のかけ方や言動に差が出てしまう児童がいる。 <要因> ・相手の思いや考えを理解していても、自分の好き嫌いに流されてしまう傾向にある。 ・自分や仲のいい友達がよければいいという考えをもち行動してしまい、周りの人がどのような思いをもっているか考えることができていない。	■資料の分析「道夫とぼく」 ・サッカーが苦手な道夫に対してイラつきを隠せない「ぼく」の言動や心情などを通して、誰に対しても分け隔てなく接するにはどんな気持ちが必要なのか考え、公正、公平な態度で接しようという心情を育てる教材である。 ・自分の利害や気分で他者を虐げてしまう「ぼく」の思いと自分を照らし合わせ、自分の弱さの向き合えるようにしたい。 ・走太の「下手だからさそわないのは、どうなのかな。」という言葉に対して何も言えなかった「ぼく」の心情を考えさせ、自分が悪いと分かっているながらも利害を優先してしまう弱さと、道夫に対して申し訳ないと思う葛藤を十分に共感させたい。 ・「ぼく」はどうするとよかったのかを考える活動を通して、誰にでも分け隔てなく接するためにはどんな気持ちが必要なのかを考え、気づくことができるようにしたい。
--	---	---

■ねらい

サッカーが得意でない道夫に対して、差別的な態度をとってしまった「ぼく」の姿や心情について考える活動を通して、誰に対しても分け隔てなく接するにはどんな気持ちが必要かを考え、誰に対しても公正、公平な態度で接しようという心情を育てる。

■人権教育の観点

走太から「下手だからといってさそわないのは、どうなのかな。」と言われ、何も言うことができなかった「ぼく」の心情を考える場面で、道夫に対する後ろめたさに目を向けることはできても、自分の利害や気分で道夫を虐げてしまっている心の弱さに気付くことができない児童がいると予想される。そこで、「何も言うことが出来ない」ということは、心の中で葛藤していることを踏まえたうえで、「『ぼく』の中でどんな思いがぶつかっているのだろう。」という発問をし、出てきた意見を良い心と悪い心に分けて板書に位置づけるという手立てをうつ。「ぼく」の心の弱さを考え、可視化することで、自分にも利害や気分によって相手への態度を変えてしまっていないか考えるきっかけとなり、自分の好き嫌いによって相手への態度を変えてしまっている心の弱さに目を向けることができるようにする。このことは、自分の人との関わり方や他者への言動を振り返り、自分の中にある偏見や差別的なものの見方や考え方を改めようとする力につながる。（自己啓発力）